

<紹介>

# 飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編 『カナダを知るための60章(第2版)』 (明石書店、2021年)

佐藤 信行

2021年3月、『現代カナダを知るための60章』が刊行された。本書は、2010年に刊行された飯野正子・竹中豊編『現代カナダを知るための57章』(明石書店)を底本として、それをほぼ全面的に改定した第2版である。本稿の執筆者である佐藤は、日本カナダ学会(以下、JACS)の会長として、第2版の企画及び編集に携わったことから、この機会にその刊行の経緯と内容を紹介しておきたい。

そもそも、本書の底本たる『現代カナダを知るための57章』は、明石書店のエリア・スタディーズ・シリーズの1つとして、飯野正子及び竹中豊両会員が編者となって2010年に刊行されたものであり、多くの大学のカナダ講座やJACS会員の授業において、教科書や参考書として活用されてきた。しかし、2015年の保守党から自由党への連邦政権移行等、この10年間のカナダ社会の変化は極めて多様かつ大規模であって、「現代」を扱う本書についても改訂が待たれていた。

こうしたことから、2020年のはじめには、本書を教科書や参考書として利用しているJACS会員から同会長たる佐藤に対して、飯野・竹中両会員の総監修の下にJACSが編者となって、本書をアップデートするという企画の原案が寄せられるに至った。先達が編者であって既に定評のある出版物について、学会が編者に加わって改訂するというアイデアは、斬新である一方ほとんど先例もなく、これを両会員をはじめとする関係者にJACS会長としてお諮りすることには、全く躊躇がなかった訳ではない。しかし、現代カナダを鳥瞰する本書は、カナダあるいはカナダ研究に関心を持つ人々の入門書・啓蒙書として、世代を超えてアップデートされ、読み継がれるべきとの後進からの具申に、飯野・竹中両会員が賛同くださり、また明石書店も新方式での改訂版刊行を認めてくださったことから、2020年5月9日開催のJACS理事会の承認を経て、飯野正子(JACS名誉会員)・竹中豊(JACS顧問)総監修及び日本カナダ学会編(編集委員=JACS会長・佐藤信行、同副会長・矢頭典枝、同・田中俊弘及び同・大石太郎)での第2版計画が始動

したのである。

COVID-19 下での編集作業は、これもまた異例のオンラインと対面の併用となったが、執筆者 52 名のほぼ全員が当初お願いした締め切りまでに脱稿くださり、無事に 2021 年 3 月に刊行することができた。

さて内容面に目を転じる。カナダ研究の入門書・啓蒙書としては、JACS 編『新版 史料が語るカナダ 1535-2007』(有斐閣、2008 年)、同編『はじめて出会うカナダ』(有斐閣、2009 年) があり、明石書店のシリーズにも本書の他、綾部恒雄・飯野正子編著『カナダを知るための 60 章』、小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』、飯野正子・竹中豊編著『カナダを旅する 37 章』、細川道久編著『カナダの歴史を知るための 50 章』があるが、本書はこれらの中で、時間軸としての「現代」、地域軸としての「カナダ全体」を設定し、そこからカナダを「鳥瞰」するところに特徴がある。この結果、本書からは歴史そのものに関する項目は除かれており、1 項目あたりの記述量も決して多いとは言えないものとなっている。他方で本書は、そのタイトルともなっている 60 の章、17 のコラム、エピローグ、文献・情報ガイドなどによって、2020 年時点におけるカナダの姿を多様な側面から提示しており、かつ、その全体を通読することで相当程度網羅的・体系的なカナダ像を得られるべく工夫したと自負しているところである。そこで以下では、工夫の具体例について若干述べておきたい。

第 1 に、本書の本体部分である章とコラムは、I. 国土・環境、II. 多様性の中の統一、III. “最初のカナダ人” — 先住民、IV. 日系カナダ人と日本文化の広がり、V. 社会・ジェンダー、VI. 政治・外交、VII. 経済・社会保障、VIII. 教育・言語、IX. 文学・文化、の 9 セクションに配置した。本書の読者は、この順に読み進めることで、空間的広まりと多様性への理解を得た(セクション I) 上で、そこに生きる人の多様性について知り(II~IV)、その後、現代カナダの諸相をテーマ別に学ぶ(V~IX) ことができるようになっている。難民、大麻、セクシャル・マイノリティ、社会保障といったまさに今日的課題についても、独立した章・コラムのテーマとしている。

第 2 に、入門書・啓蒙書のコラムは、時として本文との関係が薄くなりがちであるが、本書では、各章で述べた事象の具体的なエピソード、日本との関係、さらには将来展望などにも言及するように留意し、章の記述と一体としてより深い理解を得られるように工夫した。たとえばセクション V では、第 26 章「大麻合法化の社会」で 2018 年大麻法改正による娯楽用大麻使用の非犯罪化について述べ、続くコラム 4 「大麻ビジネス」において大麻ビジネスの実際について説明している。

第 3 に、9 セクションの後ろに「エピローグ」を配した。カナダについては、その多様性の故に、しばしば、全体としての把握が困難であるといわれる。もとより、全体的把握という営みは、まさにカナダを学ぶ者一人ひとりがなすべきものであって、本書の编者、

ましてやJACSとしての統一見解などありようもない。しかし、ここではあえて、総監修の一人である竹中会員の「カナダとは何か」をもってエピローグとした。このエピローグに賛同し、あるいは戸惑い、反対することで、読者が「カナダとは何か」を考える契機になることが期待されるところである。

第4に、巻末には、カナダに関する文献・情報ガイドを掲載した。論文については、紙幅の都合から割愛せざるを得なかったが、2000年以降の重要な邦語書籍やウェブサイト網羅するこのリストは、本質的に学際研究であるカナダ地域研究の最先端の状況を示すものであるから、初学者のみならず、研究者にとっても貴重なものであるといえよう。

JACSとしては、2009年の『はじめて出会うカナダ』以来の学会編の書籍である。多くの会員によるご活用とご意見を期待している。

(さとう のぶゆき 中央大学)